



第⑨⑧号

2012/ 3

交通基本法制定についての要望

交通基本法については、昨年通常国会に上程されたものの、いまだ審議入りできていない。この法律は我が国が本格的に少子高齢化時代を迎える中、特に地方の人の移動を確保するためには是非とも必要な骨格法だ。

世界には珍しく民間経営で公共交通事業が成立した我が国では、過度に進んだ自動車社会の影響で、特に地方の公共交通の疲弊は甚だしく、中山間のバス事業は崩壊、地方都市では鉄道路線が2001年以来25路線576.2kmが廃止され、今春も2路線が廃止されようとしている。バス路線も毎年2000kmも廃止され、減便が続いてる。2002年の交通部門の規制緩和以来各地のバス会社が28社以上経営破綻しており、もはや地方都市ではバス会社はバスの更新さえできなくなっている。交通基本法の制定、それに伴う各法の整備と財源手当てが遅れる中、ほとんどの地方都市周辺では買い物難民が大量に発生、地方都市は廃止バス路線の代替手段の確保に多額の税金を投入している状態。さらに大都市周辺でも、神戸電鉄粟生線のように年間760万人も運び、上下分離できれば存続できる路線が、廃止の危機に陥り、閑散な駅のトイレ廃止で採算改善を図ろうとしている。



全国の15歳、高校受験生は泣いている。受験校決定時に存在したバス路線や鉄道路線が、合格した時には路線が廃止、あるいは減便されている例がたくさんある。ところが「乗っているのは高校生だけだ」と言われる。国の将来を担うべき高校生・大学生は、自動車を持たない交通弱者なのだ。

一方で大震災以後のエネルギー事情の切迫の中、地球温暖化対策と経済成長を両立させるためにも、交通部門の省エネ政策のために公共交通は大きな貢献をすることができる。

そこで我々全国路面電車ネットワーク78団体は、以下のことを緊急に国会に対して要望した。

① 交通基本法を制定すること

さらに制定後は以下の項目等について至急にご検討いただきたい。

- ② 鉄道路線などが上下分離して存続するよう、財源と起債などの措置をとること
- ③ バス路線の維持のためのバス購入についても、財源措置をとること
- ④ 各都市の公共交通分担率向上目標を設定すること

こうした目標のため、我々は交通基本法を推進する市民団体、学生、交通事業者、交通労働組合、地方自治体などに呼び掛けて、連帯して要望行動を起こしたいと考えている。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



【小さな旅・番外編】ひたちなか海浜鉄道に乗る

2月11日に、茨城県水戸市で「スマートまちづくりフォーラム in 水戸」が開催され、RACDAからは理事長と私が参加した。その翌日、私は水戸に程近い勝田へ出向き、ひたちなか海浜鉄道に乗車してきた。

●ひたちなか海浜鉄道とは

ひたちなか海浜鉄道は、水戸市の北東に隣接するひたちなか市の常磐線勝田駅から、同市内の太平洋岸に近い阿字ヶ浦駅までの14.3kmの「湊線」を運営している。全線単線・非電化で、全区間の所要時間は27分。

湊線の歴史は古く、勝田～途中的那珂湊間は、来年開業100周年を迎える。全線開業は1928年で、今年で84年を迎える。

当初は、湊鉄道として設立され、1944年に戦時統合により茨城交通が発足、茨城交通湊鉄道線となった。1969年には当時の国鉄から海水浴の臨時列車の乗り入れが始まった(現在は乗り入れ廃止)。2008年に茨城交通から分社、第三セクター化によりひたちなか海浜鉄道を設立、現在に至る。

●湊線に乗ってみる

常磐線勝田駅の1番線がひたちなか海浜鉄道湊線ホームとなっており、乗り換え改札をホーム上に設置している。ここから湊線に乗り込む。

勝田駅を出ると、常磐線に沿って少し南へ向かい、常磐線と分かれるあたりで「日工前」に到着。列車はここから南東方向に向かって走ってゆく。次は



「金上」。金運上昇という縁起を担いだ駅として知られているが、駅自体は住宅地の中にある。ここを出ると一気にローカル感漂う田園風景となり、「中根」を過ぎると太平洋まであと少しというところで「那珂湊」に到着。ここにはひたちなか海浜鉄道の本社と車庫が併設されており、列車運行拠点としての機能を持っている。当駅から徒歩約10分の那珂湊漁港に隣接する海鮮市場「那珂湊おさかな市場」は大勢の買い物客や観光客で賑わう。列車は北東へ進路をとり、太平洋岸に沿って「殿山」「平磯」「磯崎」と進み、終点の「阿字ヶ浦」に到着。ここから徒歩約5分で阿字ヶ浦海水浴場や阿字ヶ浦温泉があるほか、徒歩約25分で国営ひたち海浜公園に行くことができる。

●湊線のこれから

東日本大震災からまもなく1年。ひたちなか海浜鉄道も震災で大きな被害を受け、全線で運休を余儀なくされた。しかし、復旧は早かった。地震によるレールのゆがみや溜め池の堤防決壊などはあったものの、内陸を走っていたため津波の被害は免れた。約4ヶ月で全線運転再開にこぎつけ、普段と変わらず列車が走るようになった。

湊線では、ひたちなか商工会議所が「おらが湊鐵道応援団」を組織して利用促進活動を展開しており、水戸黄門の印籠よろしく「この紋処が目に入らぬか」と書かれた乗車証明書を配布、協賛店で提示することでサービスが受

けられるようになっている。また、那珂湊駅には駅猫「おさむ」が住み着いており、おさむグッズも販売されている。

三セク化して黒字転換までもう少し、と言う矢先の震災ではあったが、全線復旧したこれからは、利用者を増やしていくにあたっての正念場ではなかろうか。そう思いながら那珂湊駅で記念乗車券などを購入し、微力ながら売上貢献をさせていただいて現地を後にした。



(石井孝幸)